



7月講座

申込
期間

小・中・義務教育学校 5/22(月)～5/31(水)
府立学校 5/22(月)～6/5(月)

PICK
UP

授業力向上

407 高等学校数学科教育講座 ～ICTを効果的に活用した授業例から学ぶ～



7月3日(月) 京都府総合教育センター
講師: 奈良学園大学 教授 吉田 明史

高等学校数学科の具体的な教材とその展開例から、指導と評価の在り方や授業におけるICTの効果的な活用方法について具体的な方策を考えます。

414 小学校実技どんとこい! 「つくってみよう」音楽科&図画工作科講座



7月26日(水) 京都府総合教育センター北部研修所
講師: 京都府総合教育センター 所員

音楽科では、児童が楽しみながら思いや意図をもって音楽創作できる指導を考え、図画工作科では、児童が自分の思いをもって表現できる指導を考えます。

411 高等学校理科実験講座 ～ICTを活用した実験を授業へ～



7月31日(月) 京都府総合教育センター
講師: 九州産業大学 准教授 猪本 修

物理分野の実験を例に、センサーと連携したICTの活用及び実験でのデータの活用の仕方や授業の在り方などを演習を通して体験的に学びます。

追加申込受付中

受講申込期間終了講座

- 406 6月2日(金) 小中算数科・数学科教育講座
- 404 6月16日(金) 小学校社会科教育講座
- 421 7月4日(火) 小中外国語教育講座
- 401 7月7日(金) 小学校国語科教育講座

研修・支援部(075-612-2952)に連絡の上、様式1にて申し込んでください。

PICK
UP

最新情報

452 特別活動講座 ～よりよく合意形成を図る話し合い活動を目指して～



7月5日(水) 京都府総合教育センター
講師: 文部科学省初等中等教育局 視学官 安部 恭子

特別活動の意義や集団活動を通じた児童生徒の自治的能力の育成や、話し合い活動におけるよりよい合意形成について、演習などを交えて実践的に学びます。

455 生徒指導講座 ～新しい「生徒指導提要」を理解する～



7月24日(月)～8月25日(金) 各所属校(園)
講師: 東京理科大学大学院/教職教育センター 教授 八並 光俊

生徒指導提要(改訂版)のポイントを理解し、学校現場での生かし方や保護者、児童生徒への支援の在り方を学び、実践的な指導力の向上を図ります。

458 特別支援教育 コーディネーター推奨講座【基礎】



7月24日(月)～8月18日(金) 各所属校(園)
講師: NITS講師陣、特別支援教育課指導主事 など

インクルーシブ教育システムの構築に向け、特別支援教育の基本的理念や京都府の現状及び最新の動向を学び、コーディネーターとして校内体制の推進について学びます。

752 校務講座



7月26日(水) 各所属校(園)
講師: 京都府立農芸高等学校 教職員

農業におけるICT活用の現状を知ることを通して、校務におけるICT活用の可能性を考えます。また、樹木の剪定方法やその際の安全管理についてライブ配信で学びます。

351 スクールソーシャルワーク講座



7月27日(木) 京都府総合教育センター
講師: 京都府まなび・生活アドバイザー スーパーバイザー 社会福祉士 長澤 哲也

ソーシャルワークの視点から、児童虐待、いじめ、不登校等の防止と解決に必要な視点について考え、他校種、専門機関と連携して支援することを学びます。

701 栄養教諭・学校栄養職員講座



7月28日(金) 京都府総合教育センター
講師: 学校法人食糧学院東京栄養食糧専門学校 校長 渡邊 智子

「日本人の食事摂取基準」策定の背景や、「日本食品標準成分表(八訂)」の学校給食における活用の留意点を学び、献立作成に生かす方策について考えます。

初任者・新規採用者研修が本格的にスタートしました！

本講座は、「教職員の服務やコンプライアンス」、「人権教育」、「特別支援教育」等において教職員として基本的な事項について学んだ後、校種・職種別に分かれ、年度当初の所感や今後の展望について交流しました。

Topic ① 【基本的事項について】

内容

- 教職員の服務、コンプライアンスの理解
- 人権教育の基本的な視点
- 特別支援教育の基本的な視点



信頼される教職員としての行動規範、教育公務員としての自覚、責任や京都府の教育に携わる身として大切にすべき視点等、教職員としての基本的な事項を学びました。

受講者の声

- コンプライアンス、人権教育など、教員として必ず理解しておくべき内容だったので、学校現場でもこれらの意識を忘れずにもっていられるようにしたい。
- 児童生徒が自己肯定感や安心を感じるためには教員の関わり方が重要である。児童生徒の人生に関わることができることに喜びを感じながら向き合っていきたい。



Topic ② 【講座をとおして】

内容

- 校種・職種別研修
(学校教育目標と教育課程・職種ごとの役割・教育活動への展望等)



自校の教育目標を確認し、各校の目指す児童生徒像等について話し合いました。また、同期採用の仲間と、教育活動への意欲や今後の展望についても交流しました。

受講者の声

- 全ての教育活動の軸となる「子どもたちにどんな力を付けたいか」ということを忘れずに、色々な立場の人の話を聞きながら、過程を大切にしたい実践を行っていききたい。
- 自分が強みにしていること、今後さらに伸ばしていくべき点を考えることができ、教員として生徒の心を動かし、心に残るような発言・行動をしていきたいと強く思った。

教育相談部 令和4年度プロジェクト型研究から

今、あらためて『不登校』を考える ▶▶▶



全国的に不登校児童生徒数が増加傾向にある中、教育相談部では「今、あらためて『不登校』を考える」というテーマで調査・研究を進めています。昨年度は教職員を対象にした質問紙調査を行いました。その記述データから不登校児童生徒に関わる先生方が、どのようなことに困っているのか、どのようなことを大切にしているのかを分析しました。

教職員への質問 ①

不登校児童生徒と関わるときに、困ったこと（困っていること）は何ですか。

回答

- ・本人への関わり方
- ・担任の関わり（担任としての関わり方）
- ・校内連携
- ・時間の確保の難しさ
- ・多岐にわたるケース
- ・ズレ、ギャップ、ジレンマ



回答は上記の6つのグループに分類できました。中でも、「学校に行きたくない子どもと行かせたい保護者」「子どもの理解や対応について、保護者との考え方の違い」「学校の方針と直接子どもに関わる教職員の思いとの違い」等、様々な関わりの中で【ズレ】や【ギャップ】、【ジレンマ】を感じていることが分かりました。

教職員への質問 ②

不登校児童生徒と関わるときに、大切なことはどんなことだと思われますか。

回答

- ・本人との対話
- ・保護者や学校組織との連携
- ・親身に、じっくり、共感的に寄り添う
- ・関わり続ける
- ・子どもを知る
- ・話を聞く
- ・信頼関係
- ・学校、気持ち



回答は上記の8つのグループに分類できました。中でも、【学校】、【気持ち】のグループは、【学校】についての内容が「魅力ある居場所にする」「多様な教育機会を確保すること」の2つに分かれることが分かりました。加えて、「本人の気持ちを大事にする」という記述もありました。

アンケートの内容からは、先生方の「なんとかしたい思い」がベースにあることが見て取れました。今年度は不登校児童生徒への「関わりの方」について、さらに研究を進めていきたいと考えています。

